

第 396 回 (571) <読書会>例会資料

『ジャン・クリストフ』第 8 巻「女友達」

— 音楽資料 —

2023 年 6 月 24 日 (土) 午後 2 時—4 時

みずず書房 409 頁下段

「クリストフは或る日、自分の七重奏曲がアレンジされて四重奏曲になって出版されているのを見つけてびっくりした。また単独で弾くピアノのための一連の曲が稚拙に書き換えられて連弾の曲になってでいることについてもクリストフは何らの諒解を求められたことがなかった。彼はさっそくへヒトのところへ出かけて行って、その鼻先に違法行為の証拠物件をつきつけながら言った—」

ベートーヴェン作曲 (1800 年) 作品 20 七重奏曲

楽器/クラリネット (B♭ 管)、ファゴット、ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

上記の文中に現れる「七重奏曲」はベートーヴェンの七重奏曲を想定したものであると推測されます。勝手に四重奏曲に編曲されていた・・とのくんだり、ベートーヴェン自身はこの曲を三重奏曲に書き直してもいます。ベートーヴェンの初期の作品ですが人気を博し、勝手にいろんな編曲がでまわったことでも知られます。

編成は極めて珍しいものです。クラリネットの B フラット管が室内楽でつかわれるのは珍しくはなかったのだろうか、と感じます。

カミーユ・サン＝サーンス作曲 (1835–1921) 作品 65 七重奏曲

ベートーヴェンの七重奏からインスピレーションを得たのはフランスの天才作曲家サン＝サーンスであった。楽器の編成こそ弦五部にトランペットとピアノ、とベートーヴェンとは異なるものの、その精神は晩年のベートーヴェンを拡張したものであった。同時に新たな古典の世界を切り開こうとした名作です。

ロマン・ロランはサン＝サーンスを「古典的フランス精神のただ一人の代表者」と評している。